

# 経済マンスリー

## [原油]

### 原油市場を取り巻く環境（6月）

#### 1. 原油価格の推移

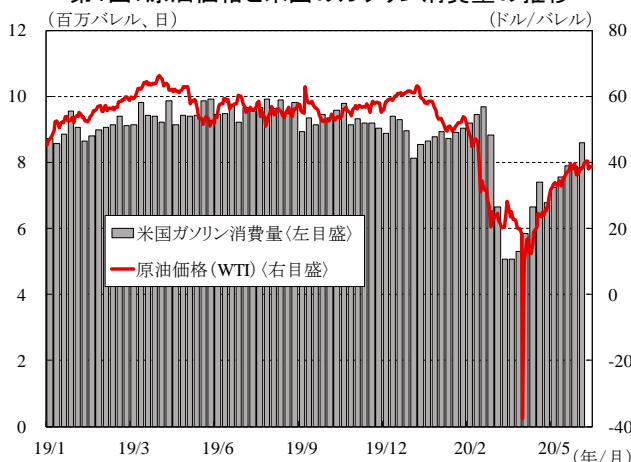
原油価格は、春先以降新型コロナウイルスの感染拡大に伴う世界的な景気落ち込み懸念を受けて下落基調で推移し、4月20日には、期近物の交替という一時的なタイミングではあったものの、貯蔵能力逼迫懸念から史上初のマイナス圏（▲37ドル台（WTI期近物1バレル当たり、以下同））を記録した。しかし4月末以降は、主要国で経済活動が徐々に再開したことを受け、原油需要が回復するとの期待が高まったこと等から価格は持ち直し基調に転じ、6月に入ると、米国の5月の雇用統計が市場予想比良好な内容だったことや、OPECプラスが6月末期限の現行の協調減産規模（日量970万バレル）を7月末まで延長すると決定したことを好感して40ドル台まで上昇する場面もみられた。ただ、新型コロナウイルス感染再拡大への警戒感から上値は重く、足許では39ドル台で推移している。

#### 2. 需給の動向

国際エネルギー機関(IEA)によると、1-3月期の需要実績は、コロナ禍の影響から前年比▲5.0%の日量9,394万バレルとなった。他方、同期の供給実績はOPECの生産量が減少したものの米国の生産量が増加したことから、全体では微増ながら前年比+0.2%の同10,026万バレルとなり、結果、需給バランスは同632万バレルの大幅な供給超過となった。

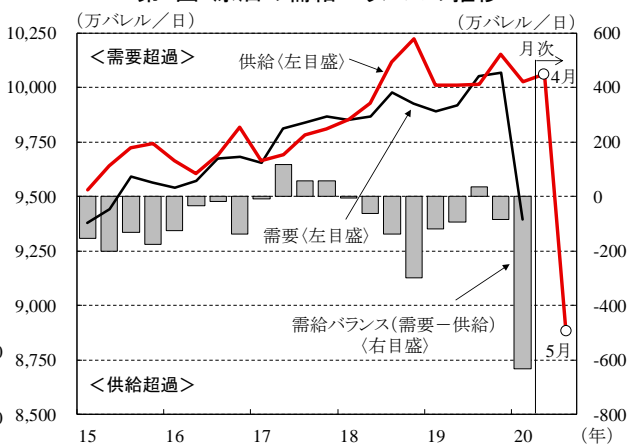
足元の需給をみると、世界の需要は4-6月期平均では更に落ち込むとみられるものの、米国のガソリン消費量が4月初を底に持ち直していることなどから、各国の経済活動再開と移動制限の段階的緩和を受け、足元では方向として緩やかな回復傾向を辿っていると推察される。一方、供給はOPECプラスが5月から協調減産を大幅に強化した結果、同月が同8,881万バレルと1-3月期の需要実績を下回る水準にまで急減している。こうした中、OPECプラスの関係者の一部からは減産延長の必要なしとの声も聞かれ始めており、延長要否の判断に当たって、原油需要の底堅さの評価を巡る生産国間の駆け引きが予想される。

第1図：原油価格と米国のガソリン消費量の推移



(資料) Bloomberg、米エネルギー情報局資料より三菱UFJ銀行経済調査室作成

第2図：原油の需給バランスの推移



(資料) IEA資料より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 篠原 令子 reiko\_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。